

シラバス参照

授業科目名	理学療法学概論
単位数	1
授業形態	講義
講義コード	6010
授業担当者氏名	米津亮(コネツ リョウ) 田中繁治(タナカ シゲハル) 森下佑里(モリシタ ユリ)

授業の到達目標 (ディプロマポリシーとの関連)	(1)理学療法の役割について説明できる。(DP2・DP3) (2)日本の将来を予想し、理学療法の新たな役割を提案できる(DP5・DP6・DP8・DP9)	
授業概要	この授業では、日本が将来抱える健康上の問題点をデータと共に読み取りながら、これからの理学療法に必要とされる学問を自ら探索するものです。理学療法士としてのアイデンティティの基盤と心構えを学び、理学療法に対するモチベーションや基本的価値観を養いながら、今後必要となる理学療法について創造する力を育むことを目的としております。	
科目ナンバリング	1-KRS-2-M08-1-2/1-KRR-2-M15-1-1	
科目ナンバリングについて	科目ナンバリングとは、授業科目に各々の番号を付すことで、学問分野や学修の段階等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組みのことです。科目ナンバーは次のように構成されています。 1 - AAA - 1 - A01 - 1 - 1 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (1)設置 大区分(大学・短大) (2)設置 小区分(学部、学科、専攻等) (3)科目分類 大区分(共通科目、専門科目等) (4)科目分類 小区分(学問分野を体系化し分類) (5)配当学年 (6)科目種別(卒業に係る必修・選択の区分) 詳細は下記をご覧ください。	
科目ナンバリング参照ページ	https://www.tokyo-kasei.ac.jp/academics/course_number/post_3.html	
授業の特徴	特徴	該当
	A: 課題解決型学習(PBL)企業、自治体等との連携あり	-
	B: 課題解決型(PBL)連携なし	-
	C: 討議(ディスカッション、ディベート等)	○
	D: グループワーク	○
	E: プレゼンテーション	○
	F: 実習、フィールドワーク	-
	G: 双方向授業(ICT活用なし: 対話型、リアクションペーパー等)	-
	H: 双方向授業(ICT活用あり: クリッカー、manaba等)	○
	I: 反転授業	-
	J: 外国語のみで行われる授業	-
K: オープンな教育リソース(JMOOC・edX・Coursera等)を利用した授業		
実施形態	対面授業科目	
実施形態について	※本学では、授業科目を以下のとおり分類しています。 対面授業科目: 授業回数の全部あるいは授業回数の半数以上を対面で行う授業科目 メディア授業科目: 上記「対面授業科目」以外で、主にメディアで行う授業科目 ※上記実施形態と異なる授業回がある場合は、以下「授業計画」欄に記載しています。	
授業計画	第1回	オリエンテーション・理学療法の主な領域(担当: 米津、田中、森下)
	第2回	日本の社会からみる理学療法の必要性について(ディスカッション)(担当: 米津、田中、森下)

	第3回	日本の社会からみる新たな理学療法について(グループワーク①)(担当:米津、田中、森下)
	第4回	日本の社会からみる新たな理学療法について(グループワーク②)(担当:米津、田中、森下)
	第5回	日本の社会からみる新たな理学療法について(グループワーク③)(担当:米津、田中、森下)
	第6回	プレゼンテーション(理学療法の主な領域に関する提案)(担当:米津、田中、森下)
	第7回	プレゼンテーションの振り返り(担当:米津、田中、森下)
授業外学修 予習(事前学修)	各授業 [100分]	教科書や日本の健康に関する問題に関するニュースや記事を広く読み、これからの理学療法に必要なことを考えてください。
授業外学修 復習(事後学修)	各授業 [100分]	講義毎に自分の考えをまとめ、グループとしての考えを統一できるようにしましょう。
評価方法	プレゼンテーション(50%)、レポート課題(50%)	
教科書等	【教科書】 理学療法概論テキスト(改訂第4版) 南江堂	
課題に対するフィードバックの方法	manabaを利用し、フィードバックを行う。	
その他		
授業担当者の実務経験の有無	実務経験あり	
「授業担当者の実務経験の内容」および「実務経験を活かした授業内容」	担当教員全員が理学療法の臨床と大学での教育経験をもとに理学療法全般について解説する。	
ファイル		